

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

研究課題名：“神戸最後の前方後円墳”の実態解明と持続的保全・活用方法の構築をめざした総合的研究

研究期間：2024年10月～2026年3月

交付決定額(研究期間全体)：2,400千円

申請区分：一般助成型
課題番号：A24106

研究代表者：神戸女子大学文学部史学科
准教授 齋藤 瑞穂

1. 研究成果の概要

- “神戸最後の前方後円墳”西区金棒池古墳の発掘調査を実施し、次のことが明らかになった。
 - ㊦造営年代：6世紀中頃
 - ㊦墳長・形：約30m，前方部はややスリムである。
 - ㊦特記事項：埴輪なし。検土棒を突き刺したかぎりでは、石室構築部材にはあたらない＝現時点では木棺直葬墳を想定。
- 2024年度および2025年度の調査期間中には，地元の方を対象とした現地説明会を実施。2か年とも多くの方に集まっていただき，各調査の成果を報告した。地域の方々の関心は予想以上に高く，貴重な歴史遺産の価値をシェアすることができた。
- 現在，調査成果の整理を進めている。発掘調査報告書を公刊し，本古墳の重要性を学界・市民の双方と共有する。



2. 研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義

金棒池古墳は、特定農業用ため池内に存する。古くから知られるにも関わらず、池が水を湛えていた時代は古墳に近づくことさえ難しく、手掛かりは唯一、神戸古代史研究会が報告した1973年測量図のみであった。

本研究により、この古墳の**規模・墳形・年代**が解明された。したがって、本研究の学術的意義は、1973年以来の停滞を打破し、東播磨地方における6世紀首長墳の定点資料として、より高次の議論の展開を可能にした点にある。また併行して実施した、宮内庁書陵部所蔵資料の調査により、金棒池古墳の被葬者像を推測するてがかりも得られており、本古墳を含めた神戸の歴史遺産に対するより一層の関心と学術的利用が見込まれる。



金棒池が水を湛えていた頃の金棒池古墳
(国土地理院撮影空中写真, 昭和51年1月)

社会的意義

基課題に引き続き、本研究においても、貴重な歴史遺産をサステナブルに守り継ぐ仕掛けの構築をめざしてきた。幸いにも、地元古神地区の多くの方々が高い関心を寄せ続けてくれることで互いに教え合い、学び合う関係をより強固にし、保存・活用の基盤を作ることができた。

3. 研究開始当初の背景

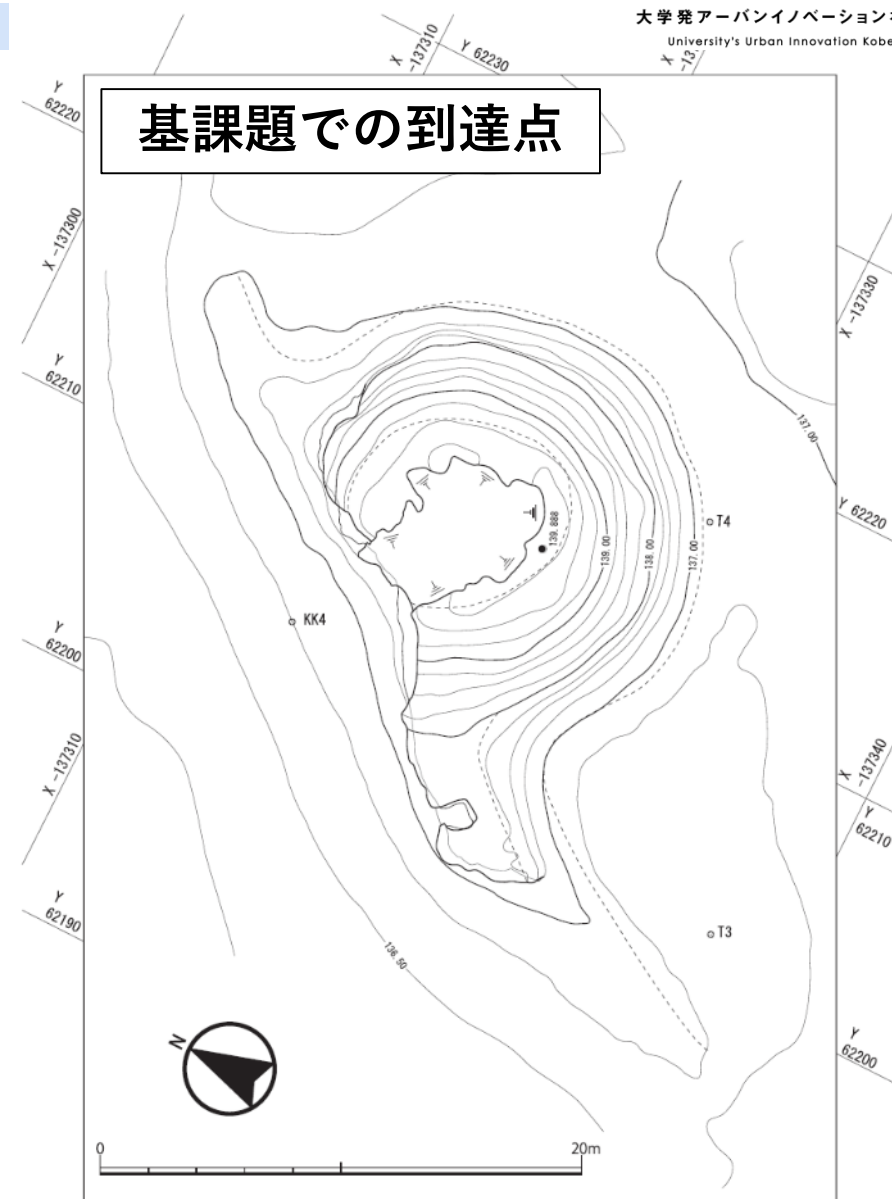
金棒池古墳とは

金棒池古墳は西区神出町の特定農業用ため池内に所在する。明治44年刊『西摂大観』に「雄子尾雌子尾両山の上に金棒池と称するあり、此池の塘に古墳あり、嘉永年間池塘修繕の際是を掘りしに、多くの齋部土器及び曲玉管玉二寸許等を掘り出せり」の記述が見えるなど早くから知られてきた。現在、宮内庁書陵部が所蔵する「明石郡神出村大字小神字丸岡」の青銅鏡や玉類・装飾品等は、同古墳が過去に破壊された際の出土品で間違いない。

金棒池古墳研究の課題

本研究の基課題は、2023年度に採択された「“神戸最後の前方後円墳”の高精度3Dデジタル・アーカイブの構築とその戦略的活用」である。ここでは、“最後の前方後円墳”・西区金棒池古墳の高精度3Dデータの作成に成功し、標高値や墳丘の残存状況を克明に記録することができた。

しかしながら、肝心な部分で課題を残す。地表面を詳細に観察しても前方部墳端を捉えることはできず、金棒池古墳本来の規模と墳形を復原するまでには到らなかった。



4. 研究の目的

目的 1

基課題「“神戸最後の前方後円墳”の高精度 3D デジタル・アーカイブの構築とその戦略的活用」では、レーザー測量を併用したにも関わらず、最後の前方後円墳・西区金棒池古墳の本来の**規模**と**墳形**を復原することができなかった。本研究では発掘調査を実施して、古墳に最小限度のメスを入れることにより、この未解決部分の解明をめざす。

なお、本古墳の営造年代についてはこれまで、6 世紀初頭説と、6 世紀中葉説との 2 案が提出されている。本研究では遺構にともなう土器を検出して両案の点検を行い、**年代**を絞り込む。

目的 2

貴重な歴史遺産を将来の神戸市民に受け継ぐには、金棒池古墳のどの部分が古墳時代のまま残存し、どの部分が損傷しているかを明確にされなければならない。本研究では損傷状況を詳細に記録して、神戸市文化財課が今後の保護施策を検討するための基礎資料を提出する。また、地元の方々に成果を還元して情報を共有し、サステナブルな保存・活用の基盤を作る。

’2024 Tre.F：周溝検出



’2024 Tre.N：墳丘断面



5. 研究の方法

研究の体制整備

調査・研究を円滑かつ適切に遂行するため、研究代表者と神戸市文化スポーツ局文化財課との間で調査研究に関する連携協定を結び、かつ、神戸女子大学文学部と神戸市文化スポーツ局との間で調査研究に関する覚書を締結する。

2024年度

1. 本来の**規模**を解明するため、主軸にあわせて前方部墳端・後円部墳端に1.5m幅のトレンチを設定する。

2025年度

2. 本来の**墳形**を復原するため、くびれ部と前方部南角とに調査区を設ける。
3. 後円部北側の湮滅部分に調査区を設定し、過去の破壊時に散逸した副葬品を回収する。
4. 調査の際には、現地説明会を実施する。情報を共有し、地元の歴史遺産を市民主体で継承していく道筋を作る。



6. 研究成果（成果物）

口頭発表

- ①齋藤瑞穂・中島小春・藤田麻希 2025「神戸市金棒池古墳の測量・発掘調査〈速報〉－明石川流域の後期前方後円墳－」考古学研究会関西例会第247回研究会（兵庫例会），2025年4月5日。
- ②中島小春・藤田麻希 2026「神戸市金棒池古墳の調査－古墳時代後期（6世紀）の前方後円墳－」神戸女子大学史学科・釜山大学校考古学科学術交流会，2026年1月19日。
- ③藤田麻希・齋藤瑞穂 2026「神戸市金棒池古墳第2次発掘調査〈速報〉－明石川流域の後期前方後円墳－」兵庫考古学談話会第57回例会，2026年4月18日。

論文

- ④齋藤瑞穂・齋藤友里恵・鈴木智之・大久保聡・宅間清公 2025「神戸市金棒池古墳の測量調査」『古代文化』第77巻第2号，79～87頁

アウトリーチ：YouTube 神戸女子大学史学科お史ちゃんねる

- ⑤武藤 望「密着！古墳発掘！最強寒波と戦う女子大生 [金棒池古墳シリーズ3]」2025年3月21日公開。
- ⑥武藤 望「女子大生が古墳の説明やってきた！！ [金棒池古墳シリーズ4]」2025年5月23日公開。
- ⑦武藤 望「Re！女子大で古墳の発掘やりますよ～2026 [金棒池古墳シリーズ5]」2026年1月23日公開。
- ⑧武藤 望「今月の考古ゼミ いざ！金棒池古墳」2026年3月4日公開。
- ⑨宮寄光有喜「Re！女子大が古墳の発掘やってきた！！2026 [金棒池古墳シリーズ6]」2026年3月20日公開。
- ⑩宮寄光有喜「金棒池古墳現地説明会の裏側，全部見せます！ [金棒池古墳シリーズ7]」2026年4月17日公開。

6. 研究成果（第1年次：2024年度）

規模の判明

後円部中心を通過する軸線を取り，軸線上の後円部後端側にNトレンチを，前方部前端側にFトレンチを設置した。

Fトレンチでは，後円部の墳端を検出するとともに，その東方で7m幅の周溝を検出した。周溝内からは古墳時代の須恵器甕の胴部片が出土している。

Nトレンチでは，前方部の墳端を検出するとともに，その西方で5m幅の周溝を検出した。一部分，南に拡張したところ，設定した軸線とほぼ直交するように周溝が延びていくことも併せて確認した。

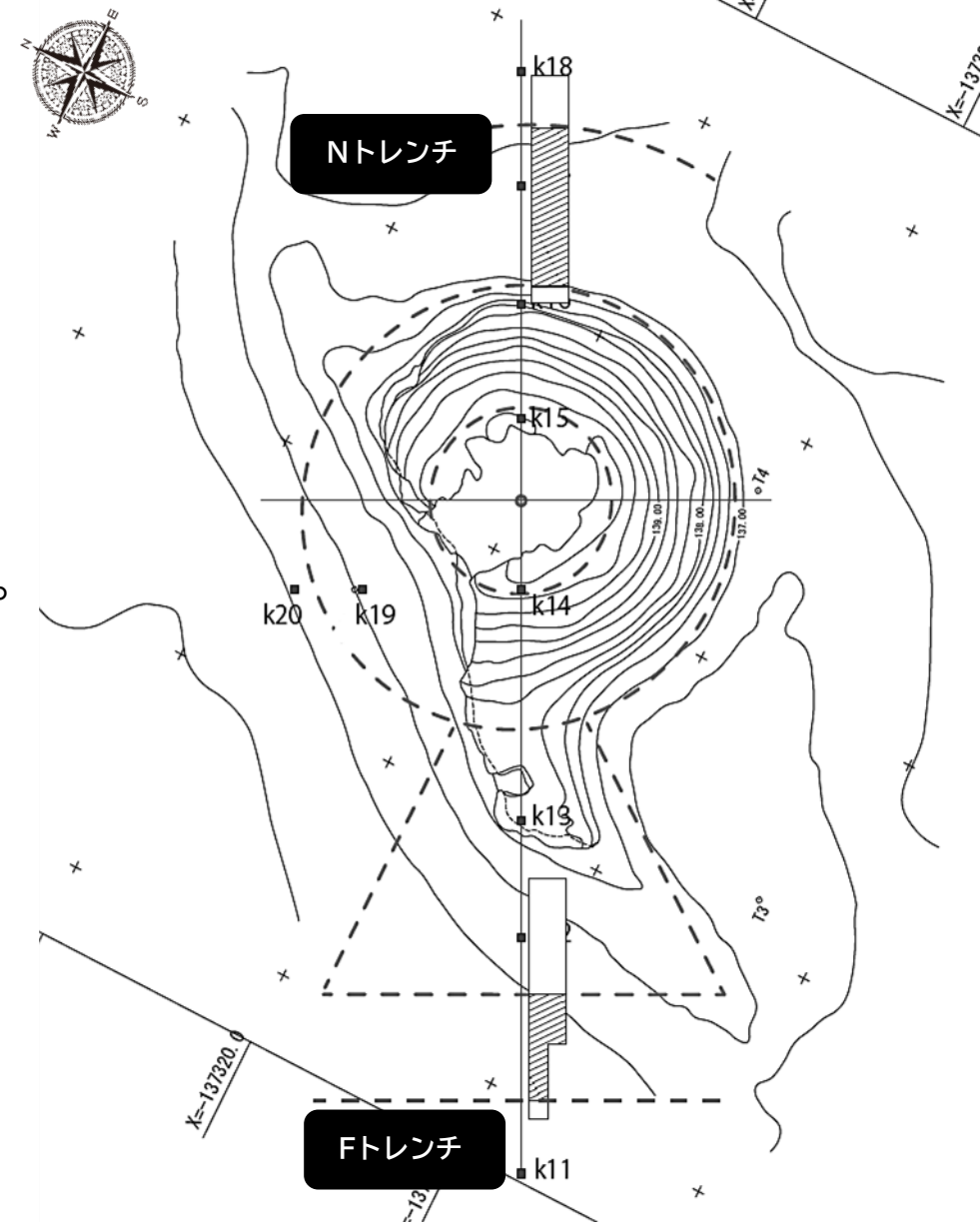
両トレンチで検出した墳端-墳端間の距離は約30mを測る。

築造方法の判明

赤坂粘土層の地山を一部加工し，その上に2種の土を交互に盛っていく様子がN・F両トレンチから検出された。の例である。

時期の推定

Nトレンチ周溝内の炭化物から年代測定を行った。結果は，424-538calAD（ 2σ ）で，5世紀中頃から6世紀中頃の範囲に収まる。



6. 研究成果（第2年次：2025年度）

墳形の判明

後円部北側湮滅部分に設定したY区では、後円部をめぐる周溝が検出された。

くびれ部に設定したA区では、墳裾と周溝が検出された。本区で検出された周溝の幅は狭く、一定の幅で巡らないことが明らかとなった。

前方部南角に設定したF区では、前方部の角を検出された。A区・F区の墳裾の位置から、前方部の形状が判明した。

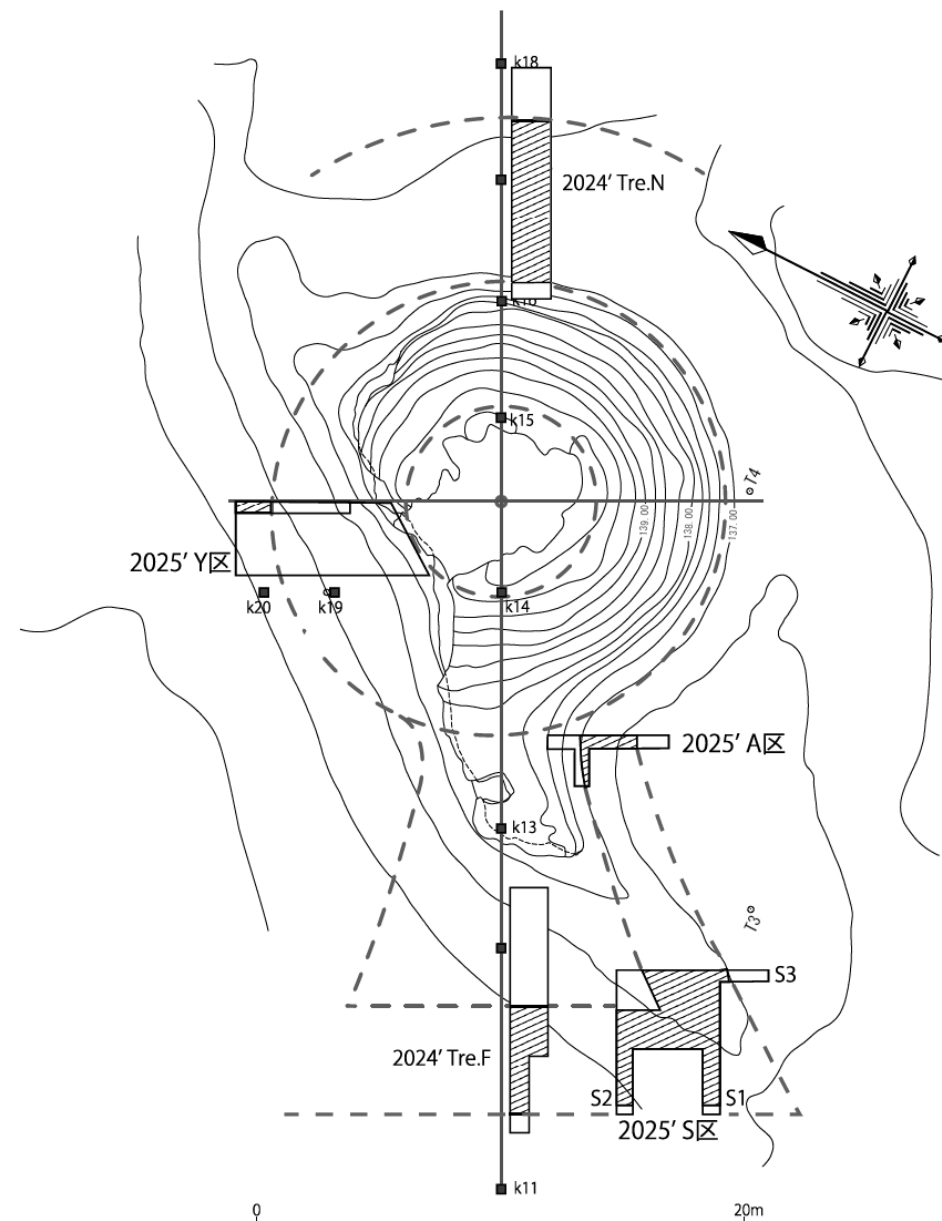
時期の判明と重要遺物

A区周溝内からMT85型式の須恵器蓋が検出されている。これにより、本古墳の営造年代は、6世紀中葉であることが確定した。

また、鉄滓が採集されており、鉄滓供献古墳の一例とみられる。

自余

第2年次は、明治期に献納された宮内庁所蔵品の調査を宮内庁書陵部にて実施した。装飾付須恵器の人物像が本古墳から出土していたことが新たに把握された。



- 阿部 功・山本雅和 2021「三木市広野古墳群出土の資料をめぐって一中谷新吉氏の調査報告と押部谷中学校所蔵の考古資料一」『神戸市立博物館研究紀要』第36号, 神戸市立博物館
- 会 下 坊 1911「播州神出村雄子尾雌子尾山之記」『西摂大観』郡部, 明輝社.
- 鎌谷木三次 1973『播磨出土漢式鏡の研究』鎌谷古文化財研究室.
- 岸本道昭 2000「播磨の前方後円墳研究序説一測量調査と集成による基礎作業一」『播磨学研究』第6号, 播磨学研究所.
- 喜谷美宣 1989「古墳時代」『新修神戸市史』歴史編Ⅰ一自然・考古一, 新修神戸市史編集委員会.
- 後藤守一 1926『漢式鏡』雄山閣.
- 千種 浩 2013「金棒池1号墳」『神戸の古墳』Ⅰ一前方後円墳一, 神戸市教育委員会.
- 中村憲司 1974「金棒池1号墳地形測量報告」『神戸古代史』創刊号, 神戸古代史研究会.
- 福原潜次郎 1921「兵庫県明石郡垂水村西垂水五色山古墳に就いて」『歴史地理』第38巻第3号, 日本歴史地理学会.
- 松本正信 1992「播磨」『前方後円墳集成』近畿編, 山川出版社.
- 丸山浩編 2012『明石の古墳』Ⅱ, 発掘された明石の歴史展実行委員会・明石市.
- 水口富夫編 1987『収蔵資料目録1 福原会下山人コレクション』兵庫県立歴史博物館
- 山田邦和 1992「装飾付須恵器総覧一装飾付須恵器の基礎的研究3一」『古代学研究所紀要』第2輯, 古代学協会.
- 渡辺伸行「木棺直葬墳の終焉一明石川流域の古墳の調査から一」『神戸の歴史』第15号, 神戸市市長総局.